

北岡理事長が2カ国の首相と会談

01



会談を行うウイクラマシンハ首相と北岡理事長



握手を交わすザンス首相と北岡理事長

北岡伸一JICA理事長は、10月6日、スリランカのラニル・ウイクラマシンハ首相と東京都内で会談しました。スリランカの首相が日本を訪問するのは7年ぶりです。

冒頭で、北岡理事長は、ウイクラマシンハ首相の再任について祝辞を述べた上で、JICAの協力を通じてスリランカが発展し、日本との友好関係がさらに深まることへの期待を語りました。

ウイクラマシンハ首相は、教育、保健、インフラ整備、紛争や津波からの復興などの分野におけるJICAの長年の支援に対して謝辞を述べました。また、中進国入りを見据えて、インフラ整備、海外投資の拡大、さらに科学技術の発展を図りたいとの意欲を示し、「JICAと一層緊密に協力していきたい」と語りました。

また10月29日、北岡理事長は、ベナンのリオネル・ザンス首相と都内で会談しました。ザンス首相は、日本から西アフリカへの投資促進を目的とした「第1回ECOWAS―日本ビジネスフォーラム」に参加するため、初めて日本を訪問しました。

冒頭、ザンス首相は、「小学校建設や、村落給水事業を中心としたJICAのこれまで協力は、ベナンの人々に広く認知されている」と述べ、「今後も保健、農業、教育など、国づくりの基礎となる分野での継続的な支援を期待している」と語りました。

これに対し、北岡理事長は、開発途上国の人々が自らの力で国づくりを行っていくための協力を重視しているJICAとして、特に教育や保健分野での協力は重要であるとの考えを示しました。さらに、来年、ケニアで開催が予定されている「第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)」に向けて、北岡理事長は、「ベナンをはじめとするアフリカ諸国との関係を一層強化していきたい」と語りました。

キルギスの道路網整備に貢献

02



署名式後に握手を交わす柳沢香枝理事とアディルベク・カスィマリエフ財務大臣

JICAは、10月26日、キルギス政府との間で、「国際幹線道路改善事業」を対象とした円借款貸付契約に調印しました。キルギスに対する円借款供与は16年ぶりとなります。

この事業では、同国南部のオシヌバトケン、イスフアナを結ぶ国際幹線道路の一部区間の改修(47キロ)と、首都ビシュケクとオシヌを結ぶ国際幹線道路上におけるトンネル建設、落石対策、地滑り対策などを行います。これらの防災対策や橋の建設には、日本の優れた技術やノウハウを移転する本邦技術活用条件(STEP)が適用されています。

オシヌバトケン―イスフアナ道路は、旧ソ連からの独立後、十分な補修が行われておらず劣化が進行。一方、ビシュケク―オシヌ道路は、山間部の土砂崩れや雪崩によって、通行止めが頻発しています。今回合意した事業によって同国の重要な幹線道路が整備されれば、国内の輸送や周辺国との交易が活発化し、キルギスの経済成長につながるかと期待されています。

インドネシアの火災と煙害に緊急援助

03



インドネシアの外務省で行われた物資の引き渡し式

インドネシアで、今年6月から発生している森林・泥炭火災と、それに伴う煙害に対して、JICAは物資の供与と専門家派遣の緊急援助を行いました。

火災は、スマトラ島やカリマンタン島などで発生し、同国や周辺諸国では深刻な大気汚染を引き起こしています。現地当局の発表によると、煙害により健康被害を受けた人の数は12万人に上り、現地報道によると死者も出ているということです。

同国政府からの要請を受けて、JICAは消火剤(2000リットル)を現地に輸送。10月17日に現地災害対策本部が置かれているスマトラ島のパレンバンに到着しました。引き渡し式では、同国のアブドゥラフマン・モハマド・ファヒール外務副大臣が、日本の迅速な対応への感謝の意を示しました。また、JICAは、10月15日から21日にかけて専門家を現地に派遣。今回供与した物資が、円滑かつ効果的に消火活動に活用されるように、同国政府に対する助言を行いました。